

cocoroom社訓
 1. 0から1を成すべし
 1. それを、おもしろ、おかしく、たのしくするべし
 1. 深く、ていねいに、息を吐くこと

会社を辞める



ネクタイ一つのはありゃ、なんとかならないものでしょうか
 夏は暑いし、首は閉まるし
 もし僕が総理大臣だったら
 せめて夏の間だけでもネクタイ背広禁止令を出すな
 こういうのは一斉にやらないと意味ないですからね
 でも町中がアロハ姿のおっさんビジネスマンだらけになったら
 それはそれでどうかという難題が。

会社を辞める

へとへとになって、
 地面にしゃがみこんで、くたばりたくなることは、誰にだってある。でも、それは決断するタイミングじゃない。
 そんな劇的な決断なんてものはない。
 一大事に決断するのが勇気ではない。
 毎日まいにちの判断の積み重ねにすぎない。
 言い訳がたくさんできても、だからどうだというのだろう。
 自分をしっかりとみつめ、自分の経験値を高め、自分の人生を生きることをすればいい。
 一生懸命生きていたら、優先順位もわかるし、いろんな判断ができてくる。
 会社を辞めるときというのは、おのずとわかる。

鳥

一本の詩を書くためには、熱をもちいる
 大阪の夏のほてりを残した身体は腫んだように
 熱をもっているが、詩にするためには
 その熱をどこかへ移動させる
 雨のてのひらですく
 こぼさないように
 でも、すばやく
 あちらから、こちらへ
 明け方になれば、鳥が鳴くから
 目が覚める、どこから鳥はやってくるのか
 考えたことはなかった
 くらい夜のなかを鳥は移動してくるのか
 くらい夜のなかを移動する鳥以外のものが
 コンビニの前で座り込んで
 白いビニール袋に手をつっこみ
 首をまわし、肩をちいさくまわすと、こちらを見た
 頭にてぬぐいを巻いた男は何かを言った
 あまりに、かすかで、聞きとれず
 男は、言ったもの間違っていたと頭に書いていたので
 尋ねることもはばかられ、しばらく待ってみたが
 彼はもう、目をあわさないのだ
 ビルのうえの月をみる
 植え込みのタイルのうえには死骸の吸い殻
 男の言えなかったことばの熱が
 大阪の道路に溜まっていく、こやよって
 しゃがみこんだかたのまま、腫んでいく
 新今宮駅前のコンビニで歩くあてのない男の
 身の上は想像もつかないが、今夜
 男の眠る屋根がないことは、わかる
 このあと、深夜の路上をさまよいはじめる男の足取りは
 大阪の夜をかきまわす
 明け方には、熱にのみこまれる
 一晩も熱を溜めることができないから、鳥は
 ちいさなからだなのだと思いが、鳥は
 顔を洗うと
 顔をかき
 鳥のかたにまるめた熱を
 てのひらにのせて
 窓から、飛ばす

cocoroom ますます使いやすくなって



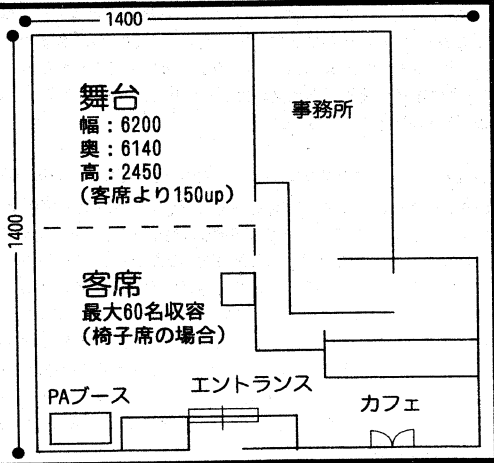
劇団バック「co屋」

- co屋5日間バック(木金土日) 15万円
- co屋4日間バック(木金土日・金土日) 13万円
- co屋3日間バック(金土日) 10万円
- co屋2日間バック(土日) 8万円



*ステージ数問わず一律料金*使用時間12:00~22:30*仕込・ばらし含む*月曜は18:00まで*機材管理料含む(音響スタッフはつきません)*稽古使用は3万円*その他の曜日でも可*お客様には入場の際1ドリンク(¥500)別途必要*情宣協力いたします!

●キャバ椅子席:60 ●舞台スペース6×6m ●音響システム完備 ●照明:調光3系統(店舗用) ●搬入出用駐車場:2台(要申請) ●定める使用規定にもとづいてください。くわしくはコロールまで
 今から申し込み開始! 早いもの勝ち。公演は2005年8月末までといたします。
 お申込み・お問合せ:コロール
 tel.06-6636-1612. tel&fax06-6636-1662 cocoroom@poppy.ocn.ne.jp 担当:飯島、坂本、上田



特集：「会社を辞める」にまつわる

あれ、辞めたいのかも。ああ、もう辞めたい。ふん、絶対辞めてやる。で、辞めて、どーすんねん。あ、辞めろって言われてる。辞めて、どーしたらいいねん。そう、会社辞めても、人生はつづく。
人生がひとつのものであるために「会社を辞める」は、いろんな捉え方がある。「会社」は人生に深く関与する。そこで、ココラムにやってきてくれた人に会社を辞めるってどう思う？と尋ねてみた。

■辞めたほうがいいのか・辞めないほうがいいのか BJだいち(坂本健一)
前職：本屋の店員／現職：FCチェーン本部加盟店開発員

辞めたほうがいいのか・そのひとは、ミッションがあって、それを実現するために、行動を起こそうとする。しかし、そのひとのミッションのベクトルとその会社の理念のベクトルが明らかに大きく食い違っている。人生の貴重な時間が浪費されるだけで、そのひとの可能性を掘り下げることすらできなくなるかもしれないとき。そのひとは、辞めたほうがいい。会社もそのひとを手放したがるからね。
辞めないほうがいいのか・そのひとは、ミッションがあって、それを実現するために、会社を辞めなくて、行動を起こすことが可能な場合。むしろ今の会社の風土を変革させる力にもなり得るとき。そのひとの存在価値を高め、さらに、そのひとの可能性を深めていけそうとき。そのひとは、辞めないほうがいい。会社がそのひとを求めているのだからね。

■年齢 餘吾康雄
前職：プラネットステーション／現職：芸術創造館スタッフ、NPORecip理事、NPORemo理事
大阪府下、30歳以下の青少年がアートを目的に集うプラネットステーションに仕事として入ったのが28歳の時、10年前。ほとんどが芸術系の大学生の集まりで最初は戸惑いもあったものの、お兄さん的な扱いだったので、自由にさせてもらった。しかし学生は就職し、またその道のプロになりその場を離れて行く。そして毎年新しい青少年達が入ってくるにしたがい、僕と青少年の年齢の格差の処理に戸惑う日々が続いた。
楽しかったが虚しかった。で、5年で辞めた。辞める前に病気を患った。
学校のクラブの顧問の先生はどうやってその辺を処理しているのだろうか。「老兵は死なず、ただ消え去るのみ」といった人物もいた。「最大の功労者は最大のネックでもある」といった会社社長もいた。引き際は大事である。とりえず、起こってしまった事はすべて良い事なのだから。

■その先にあるもの 黒柳多恵子 前職：アパレル販売員／現職：言葉作家
会社を辞めるとき、どんなに真つ当な理由があっても、その場に残る人達には口が裂けても言ってはいけないことがあると思う。辞める理由なんてものは、極端な話、残る人達に納得してもらって「しょうがないよね」って思ってもらえればなんだったかいい気がする。
だから私がこれまで、会社を辞める時に話してきた「辞める理由」は必ずしも本当のことばかりではない。開き直りだと言われても、ここだけは譲れない。ええかっこしいでもいいじゃない、と、私にとって辞めることは、私が次に進むために必要があってすることで、そこに残る人達に疑問を投げかけるためでも、異論を唱えることでもないのだから。
辞めることが先にくるのではなく、その先にあるものを見据えて、あくまでそれを真直ぐ目指すために私個人がする決断なのだ。

■社会を辞める 泉谷洋平 前職：学振研究員／現職：何でしようねえ
一年半前にまで、月給をもらいながら大学院生をしていたが、学問で生活を立てることに疑問を感じ、唐突に大学の世界から足を洗った。大学院というのは「世の中」としてはとっても狭いけれども、それまでの僕にはそこが「社会」との主たる接点だったので、大学院を出るときは、言ってみれば社会そのものを辞めたような気分だった。
その後、話すのも馬鹿らしくなるほど筋骨きのない成り行きで、釜ヶ崎のまち再生フォーラムというまちづくり運動のネットワークのお手伝いをするこになり、生活保護を受けて野宿生活を脱却した高齢者の人たちに出会うことになる。そこで僕が最初に手伝ったのが、「投票へ行こう！社会再参加キャンペーン」という、統一地方選での投票を呼びかける運動だった。たった今社会を辞めて晴れて自由人になった若造が、幾多の修羅場をくぐり抜けてきたであろう自由人の先輩に向かって社会にもう一度参加しようと呼びかける運動を手伝うのはなんと皮肉だと思ったが、実際に目の前にいる彼らと喋っているときには、そんなことはどっちでもいいことだった。僕の目の前に彼らがいることによって、僕が辞めてきたあの社会や、彼らがこれから復帰しようとするその社会とはまた別の、新しい社会がそこに一つ出来上がっているのだ。意味のある社会なんてそこにしかありえない。
今、再生フォーラムでは、彼らと一緒に自分たちだけの通貨を作って流通させようという運動をやっている。個人的には、あの社会を辞めて新しく彼らとの間にできたこの社会が、自分たちだけの通貨という形で、ちょっとでも目に見えるようになればいいなと思っている。そんな運動の一つのきっかけとなって、9月から、これまで「塞翁が馬」的な筋骨きのない成り行きではあるのだが、cocoroomのお手伝いをさせてもらうことになった。
個々の社会は後から見れば実に簡単に辞められる。でも、社会そのものは辞めようとしてもなかなか辞められないものらしい。

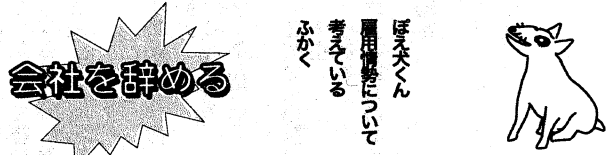
■失業保険 ニシダヨシタカ 前職：出版社勤務／現職：編集プロダクション勤務
労働時間が馬鹿みたいに長い職場を辞める場合。辞める数ヶ月前からタイムカードをコピーしておくこと。ハローワークで失業保険の申請をするときにそのコピーを提出すると、職員さんが目を丸くして口をぽかんとして、驚きのあまりすぐに失業保険の給付手続きをはじめってくれる(本来、自己都合退社の場合は給付金が出るのに3カ月ほどかかる)。「週に何度かはAM10:00~AM5:00頃まで働いてました！」級のインパクトあるタイムカードなら尚良い。「大変でしたね、ご苦労サマ」なんて、職員さんから労いの言葉までいただけたりもする。聞いた話ではあるが、この方法なら会社に迷惑がかかる事もないらしい。それにしてもまだ、働いていないのにお金を貰うのって物凄く複雑な感じがした。「何か申し訳ないような…」と思いつつも、裸に仕事も探さず毎日酒ばかり飲んでた私。わりと最近の話である。

■30分で考える退職 佐藤巨/もくらが一周するまで 前職：学生/現職：流通業新入社員
1:左半身のあらゆる箇所、眼球・奥歯・耳・肩・拳丸などなどに何がしかの影響が出た、とかいう身体健康上の理由。6@
2:官僚的組織に与し、自らの黄金の精神をすり減らしながら人生を全うすることは云々…、とかいうちょっぴり文学スノッブな理由。
3:蓋を開けてから初めて分かる企業のムラ社会っぷり・人間関係・業務内容等に片っ端から辟易背水撃するも、結局は腕の一本も持っていない、とかいう理由。
4:労働などしなくて生活している蓄えを持っているもしくは手に入れた、所謂「おれんち食ってくだけの金はあんのよウヒヨルン」とかいう億豪の理由。
30分だとこれぐらい？いや何時間考えても出てこないのかも。とにかくにも、就職イコール単なる社会経験と捉えて止まない僕の頭には、いつまで続けようかとか、そんなことばかりがよぎりの露。

■わたしの人生は、会社を辞め続ける人生でした 坂本ぶでいんぐ斎
前職：大工、染織家、料理人など／現職：ココラムスタッフ、PPPP担当他
理由は簡単。嫌な事があれば、その嫌な事が止める原因になったからです。「こんな会社、嫌だから辞めます」好きな事だけやっていたいとか、辛い事から逃げ出したいから辞めたわけではなかったと、私は自分で自分を信じてあげたいです。会社の利益が優先するから、その事は規定マニュアルに記載していないからという理由で、じつはお客さんの安全や利益が後回しになってしまう事も多いのです。また、働く人の安全も。お客さんの為に、喜ぶ顔がみたいからというは、いつの日か忘れ去られてしまうのです。痛んでいるのを承知で、会社ぐるみで返品された牛乳を売ったり、食肉の産地を偽装したりと、やりたい放題です。上司の命令だから、仕方なくやっただけと言われても、いい歳をした大人の責任ある判断とは思えません。会社とは大なり小なり、そういうたずさや悪さを抱えているのです。わたしは清廉潔白、正義の人ではありません。でも嫌なんです。会った事も、一緒に仕事した事もないのに、私はオサマ・ビンラディンや、ジョージ・ブッシュ、池田小学校事件の宅間被告、ナベツネが嫌い。彼等の経営する会社では働けません。ああもう、人間をするのも嫌です。「こんな人間、嫌だからやめます」

■会社を辞める 飯島秀司 前職：サラリーマン／現職：ココラムスタッフ
つい先日、3年半つとめていた会社を辞めました。
経営状況が芳しくなく、会社側もホッとしたみたいで、ひきとめも殆どありませんでした。潮時だったのでしょ。
わたしの年齢と履歴では、この先いろいろときつい。それでも知恵をしぼり、なんとか生き抜いていく覚悟で、わたしは辞めました。人生のスタートラインに立てた気がします。

■結局、自分の人生なんよね 上田假奈代 前職：コピーライター、調理師／現職：詩人
8年つづけたコピーライターを辞めようと考え始めた時、胃炎、頭痛、熱がでる毎日がつづいた。その症状のある人に言う「何かの問題から逃げようとしているんやね」と一言。的中である。体が悪くて、次の仕事なんか探せそうにない、という言い訳を自らつくりだしていた。そこで、転職云々じゃなく、まづは体力を回復しようと考え、生活改善、運動をすること1ヶ月ほど。すると「情報操作によって消費をおおる仕事をしたくない」という理由で「会社を辞めて、死ぬわけじゃなし。どんな仕事も大変やろうけど、職種を変えてみることはきつと別の思考角度を持てるやろう、人生にいろいろ経験を持つのも悪くない」という答えにいきついた。今思うと、かなり甘い考えだ。
その1ヶ月後から、朝5時起きでTEC日調に通い、調理師免許取得。ホテル杉の湯に住込み就職。朝6時過ぎから厨房で働く。結局本当に体をこわし、退職。自分のできる仕事はやっぱり言葉業か、復帰ライターになる。ところが1年もしないうちに事件が起こり、詩人で飯を食う宣言をする。4年経過がいき。恥ずかしく、情けない履歴である。幼い人が自身の人生を自ら担うことを深く理解するには20数年を要し、多くの大人たちに教わる必要があった。



働くということ やまむらけい子/立体造形あむアーティスト、一般視覚障害者
私の考える「働く」ということは、「金銭を得る」ということ。この世界では、多少なりともお金がなければ生きていけない。大人は仕事をして金を稼ぐ。子供は養われる。高校生、大学生はアルバイトなどで自分の生活費(小遣い)を稼ぐ。私は大学生であるが、世間一般=普通の大学生のように、普通にバイトすることができない。目が見えなくても、探せば何かはあるのかもしれないが、それは限りなく少ないものだろうし、選択の余地はないと思う。だから、私は今バイトをしていない。しかし、生活費には不自由していない。
一般身体障害者に認定されていると、20歳を越えた時点で「障害年金」なるものが支給される。20歳以降に、中途障害を負った場合は、それまでに国民年金もしくは厚生年金に加入していることが条件である。私は20歳を過ぎてからの中途障害であるが、国民年金の学生滞延届を出していたため、一銭たりとも払っていない。しかし、年金の恩恵にあずかっている。
この世の中は、心のバリアフリーだ何だと叫ばれているが、障害者にとっては理不尽極まりないものだと日々痛感している。「親切の押し売り」を感じることも、とても多い。毎日のように腹を立てている。
そのことを彼氏に相談したところ、こう諭された。「でも、そんな腹の立つことをしてくる人達の払った税金のおかげで、年金をもらっているんや？そう思ったら許してやろうって気になるや？と。と、しかして、考えてみればそうだ。親切の押し売りをしてるオッサン/ババア達、どうもありがたう。
そう思うと、障害者は「生きていく」だけで金を得ている。働いていないということになる。これは、大変ありがたいことであるのだが、逆に考えれば「こいつらは、金を与えてやらないと生きていけない」となめられている気がしないでもない。もらえる金は、ありがたく頂戴するがいつの日か障害者に年金なんて支給しなくても、十分に生きていける環境(人々の意識、仕事)になれば、私のような斜めから構った考え方をすることもなくなるし、差別意識もなくなると思うんやけどなあ。どうなんだろうね？

かまなび訪問記 明日のために、ライ麦を届けめぐろう 餘吾康雄/NPO Recip理事事業部担当

三大欲求である、食欲、睡欲、性欲の中で、一つの欲求が強いと他の二つもそれに引張られるように連鎖していくような気がするのですが、三大欲求のそれは、次の何かの行動の力として必要な物ばかりなので、多分、次の何かの行動が見いだせなくなった時に一つずつ、無くなっていくような気がする。そのような生活状態にかかわらず、今の環境に慣れてしまおうと、それでいいのだ、と思う反面、振り子の様に次の行動が生まれる瞬間もあります。表裏一体なのでしょう。

しかし多分、いろいろ経験を積んでい内に、今まで（の経験上、やらない方が賢明だとか、これよりもっと悪くなる事もあるかもとか、大人げないとか、相手の気持を考えたら、とか云々。

そうやって自らを抑圧し、行動を削ぎ落とされ、現代社会に適応するような欲に仕組まれ、生活していき、社会が変わると適応してきた仕組みが要らなくなると、それに携わってきた人々も要らなくなる。その時に止まった振り子が重圧に耐えかねて地面にポトンと落ちる。振り子の紐が古くなって切れる場合もあるけれど、自ら切ってしまう事もあるでしょう。

しかし、かまなびに集まる65歳以上の人々は、例えば何かの枠組みで活動してこずに、徒党を組まずにやってきた人達のコミュニティで、他から頼ればその存在が不思議だと思われているらしい。

かまなびは65歳以上の生活保護を受けている、元ホームレスの方々で、住む場所と生活資金はあっても、今までの生活習慣から、引きこもってしまう方々に開放された場所です。

しかしそこに足を踏み入れたとたん、本来コミュニティとはそういう物だったのではないかと気付かされました。本当の楽しさ、コミュニティを見た気がします。

しかしそれは現代社会から見た、現代社会に適応するよう作られたコミュニティしか知らない人々にとっては不思議な価値観に写るらしいです。そこはNPOかまなびの尽力により、ただ場所があるだけ、というスペースながら、自らお茶をいれたり、コーヒーを作ったり、窓を拭いたりと自らルールを決めて自ら動いています。今までの数多くの経験、いろいろなお金を誰に、個々が存在意義を見出し、他者を意識し、そして自らの欲求を満足するために、そのコミュニティの中で誰かに言われるとなく、自ら行動を起こしています。

本当ならば、話したくない事、聞きたくない事、顔を合わしたくない日、などもあるとは思いますが、感覚としてのルール、マナーの中で、肌で感じつつ、言葉ではなく、行動として優しく生きています。

次にこのコミュニティに必要なのは、今までの現代社会に適応するよう遅れた物質的なほどこではなく、必要な時に必要な物が出来るコミュニティ、肌感覚、であると思います。

今は、生産性のない固まりに見えるけれど、すでにこのコミュニティには紙芝居一座として行動を起こしており、いままで繋がりなかつた他者とつなぐツールとして機能しています。

それは、ママさんコーラスとはまったく違うヴィジョンがそこにはあります。かまなびにはエルヴィスプレスリーの腰つきに近いものがあります。そのちっちゃな固まりが出来ていき、そして、一つ形が出来ると、それに続く別のコミュニティが出来ていくはずで。

他の活動も時機に応じて出ていくこともありうるでしょう。当然、反発も生まれるとは思いますが、多分誰の責任で、とか上司に言われて、とかの胡散臭い責任転嫁ではない、新しい形が生まれてくると思います。

それは、新しい価値観なのではなく、本来持ち合わせている本能的なかもしれないし、自分に対する闘争本能だとも思います。闘争本能が見えたとき、欲が湧いてくるのだらうと思います。僕は飢えを経験した事がありません。それを経験する事がどういう事なのか分からないけれど、それを経験してきた方々にとって、何にも代え難い、人としての力があるのでしょう。そこに潜む笑顔が、現代社会のコミュニティのあり方、これからの芸術文化に必要なのだと考えます。

ホームレスのお仕事 川浪剛/ホームレス自立支援相談員

日本には「ホームレス」と呼ばれる人たちがおよそ三万人います。

そのうち約三分の一が大阪に集中し、約八割の人たちは主にアルミ缶を回収して月に多くて五万円程度の収入を得て暮らしています。大阪に固まっている理由は、コロールムのあるフェスティバルゲートから南の方角に臨んだ釜ヶ崎(行政用語ではあいりん地区)という日本最大の日雇い(土木建築や港湾労働)仕事のマーケットがあるからなのです。

この街をめざしてやって来た人々が、仕事にあふれてドヤ(簡易宿泊所。宿をひっくり返した符丁)に泊まれるくなり、止む無く路上に寝泊りすることになるというパターンが一番典型的なものです。

私がやっている仕事といえば、二年前に出来た「ホームレス自立支援法」という法律に基づいて、公園でテントを張っている人々を一時避難所(俗にいうシェルター)に誘導し、そこで身体の具合の悪い人はお医者さんに見てもらい、借金を抱えて戻って来てもさっさと行かなくなった人は弁護士さんの知恵で片をつけてもらい、失効した運転免許を回復したり、新たにフォークリフトや溶接の資格を取ってもらったりして再就職するか、または生活保護を受けるのお手伝いすることです。

昨年九月、ホームレス状態にある人だけが販売できる雑誌「ビッグ・イシュー」が、大阪から発刊されました。その代表者である佐野章二さんのお話を伺いました。「生活保護というのは(釜ヶ崎の路上でおおっぱりに売って?) 覚せい剤みたいなもので、使えば使うほど効かなくなる。だから、ホームレス問題を解決するには、まず仕事を創り出さなければいけないんだ」と。

なるほど。私も行政が行う処遇には限界があることを認めます。シェルターを出て、生活保護を受けてワンルームマンションに移り住んだ人たちは、この一年間で約二割が行方不明になってしまいました。(というところはテントをどこかで再び張っている?) おっちゃんたちは「他人やお役所の世話にならず自由に暮らしたい」と、あくまで市民社会的倫理で暮らせることをキラウ根からの自由人なのかも知れません。

ホームレス インドでやれば 出家かな。

コロールムでは、たくさんのアーティストというのか表現者たちが登場されるのですが、最近ではずいぶん伝統芸能の方たちも出演されるようです。能・文楽・めおと漫才etc.

「役者は河原乞食なんていう死語的フレーズがありますが、中世から発した芸能というのは、社会からはみ出した人たちが食いつくために、崖っで路上から編み出したなりわいのようなのです。

それは、どこかかわらぬ胡散臭い、差別や偏見の目で見られる一方で、聖なるわざでもありました。その「聖なるセーフティ・ネット」が今の日本には見当たらない。

人は、どこかでくじぶんと表現することをしなくては生きていけない動物なのかなと思います。だったら、ホームレスという状態にある人が、自分たちの仕事や芸という表現を磨く場の存在が重要です。私はこのコロールムというロケーションが、それにうってつけの場所ではないのかと、ひとり密かに思っているのです。

ブルーシートの上を幻の犬が走ってゆく 上田假奈代

■生きることで動くこと
フェスティバルゲートでは日が一日空を見あげている男たちがいる。目はあわずか瞬くことはない。足下に置かれた茶色いポストトラックがくたくたびれている。

閉館時間が近づくと、男たちは黙って今夜眠る場所を探しに夜の街に歩いて行く。

この人たちの腹の足にもならないアートや文化を仕事にしようとして生懸命だけれど、がんばっているからいいのではない。根源的に「生きること、飯をくうこと、仕事すること」にきっちりむかひがあるかと深く考えずにはいられない。表現者として生きる者には、この場所はキツイ場だが、突きつめてゆける場所だと思う。

■フタをした歴史
フェスが出れば、堺筋、労働者風の男たちが雑物姿のわたしをじろじろと見る。話しかけてきたり、ヤジをとばすおっさんも多い。普通の会話であれば受け答えしているが、汚い言葉を使い出すと、わたしはその場をすぐに離れる。環状線のガードを抜けると西成。仕事にいきそびれた男たちが無表情に座り込んでいるあいりんセンターを曲がる。ドヤ街、テントの公園、アルミ缶の交換所、シェルター、屋台、路上で酒を飲むおっさん、ヤクザ、刺青のクスリの売人。その横には商店街があり、その向こうに飛田がある。この周辺の歴史は江戸時代までさかのぼるらしい。全国からやってきた男たちは土木仕事をした。その横に商売人、そしてからだを売る女たち。政治から経済、ジェンダーまで、この街には日本の歴史がある。

■かまなびとびよんびよん通貨
初夏から、釜ヶ崎の地域通貨をコロールムのびよんびよん通貨と交換できる仕組みをNPOかまなびと協力し、取り組んでいる。といっても、こちらはおっさんたちに作業を手伝ってもらったのだが。

路上暮らしを辞め、生活保護をうけることによって暮らしている65歳以上のおっさんたちは、ドヤ街を改装したサポーターハウスの3畳一間に住む。衣食住は足りたが、やることがない。知恵をだしい紙芝居をはじめ、コロールムの作業を手伝ってくれたりして、生き甲斐をみだしている。

そのうちの一人のおっさんに西成を案内してもらった。歩きながら「おかげでこうやって暮らせるようになったから、わたしなりにお役にたたいとおもうて」と話してくれた。

先日、このNPOの事務所を訪ねた。にぎやかに紙芝居の小道具作りや演奏の稽古をしているおっさんたち。彼らはこの事務所の掃除係やお茶係をかかって、それぞれ得意な事を率先しておこなっているらしい。西成のおっさんたちは協調性がないと誰かが言っていたが、人生を重んじた人たちの思いやりの力強い姿があった。

■ホームレスと若者をむすぶ
雑誌「THE BIG ISSUE」を知ったのは夏だ。この仕組みに吃驚した。雑誌を、それもホームレスから買うなんて、前代未聞である。道ばたでホームレスから雑誌を買う若者たちは考えることだらう。なぜ人は汗して働くのか、と。

この結びつきはホームレス支援にとどまらず、多くの人に問いを発し、考えるきっかけとなるだろう。その試みを実行した編集部に敬意を払い、そしてこの雑誌を販売することで生きる力を得るおっさんたちを応援したいと思い「reading THE BIG ISSUE」を企画した。形は通常のブックングライブだ。この雑誌を知らない人に来てもらいたいから、催し当日に販売員の方に来ていただくと思い、人を介して紹介してもらった。その方が下見をかねてコロールムに来てくださったとき、わたしたちの間には沈黙の時間が長かった。その人のこらえている痛苦に、わたしは何と書いていいのかわからなかったのだ。

「路上で暮らす人にも二つあります。仕事したい人と、もうどうなってもいいと思っている人。ビッグイシューが売れる実績があれば、気がなくなりしている人にも仕事やってみようかというきっかけになるかと思うんです。だから、口べたですけれど、僕なりに話します」と言う。イベント当日、彼にもマイクを渡そうと思う。

■路上で暮らす俳人とお稽古
路上で暮らしている俳人を紹介され、「reading THE BIG ISSUE」で朗読を試してみませんかと言った。その時は断られたのだが、その数日後にメールが届きお稽古をすることになった。彼は熱心で、そして今も週に何日も稽古をし、朗読についてメールのやりとりもしている。

彼は社会的な常識をさっさともって、戸惑わされるようなことはない。彼のブルーシートのお家にお邪魔したり、西成にある仕事場の自転車屋をふらりと覗きにいったりしている。彼にどんな過去があり、どんな経緯で路上に暮らしているのかは知らないからだには悪いだろうから、暖かな部屋で暮らしてほしいと思うが、それも口にはださない。

■西成の自転車屋で芝居鑑賞
その人の自転車屋で新屋英子さんのひとり芝居があった。暗幕をかしてほしいというので、用意して渡すと「あの、使用料は、」と尋ねられた。タグで貸してほしいではなく、当たり前に尋ねてくれた。芝居は入場無料である。わたしはお金は要らないと答えた。そして芝居を見に行った。道ばたには男たちがむさむさとして、劇場空間がどちらかわかんないなあと、とほれたこと思った。芝居中もずっと嫌ことを言う客がいて、途中で中断するようなビッグイシューもあったが、すばらしい新屋さんの立ち姿に感動した。カンパ箱に芝居の料金を入れて帰った。そのあと、打ち上げを終えたおっさんたちがご機嫌な様子でコロールムにお酒を飲みに来てくれた。

■出入り禁止おっさん2名
カフェはオープンなので、西成のおっさんたちがよく来るようになった。なかには酒癖の悪い人やうるさいもいる。彼らは病気を理由に若くして生活保護をうけて、昼間から酒を飲んでいる。世の中には病気しながらも働いている人もたくさんいるわけだから、おっさんたちに酒や病気が増えないでほしいと思うのよ。いや、おっさんだけでは、コロールムがおっさんたちの、社会とむきあうきっかけの場ひとつになれたい、と願っていた。同時にそれはわたしたちの修練の場になる。

ある日、二人のおっさんが喧嘩し、無銭飲食し、他のお客さんを怒らせたりした。わたしに場を制御する器が足りなかったのだ。スタッフとも話し合った結果、おっさん2名に「出入り禁止」を申し渡すことになった。

■西成は独れない?
あの狭い地域には高層のドヤ街があり、シェルターがあり、人口密度は驚くほど高い。そのなかにNPOが40ほどあり、利害や政治など複雑な要素が絡まり合っている。福祉も警察もそれぞれに取り扱う事柄が違うので、抜本的な解決は簡単には望めない。現在は日雇い仕事につけなくなった高齢者が増えるなど、問題は多様化しているのだ。暴動の記憶を残す住民は、男たちが集まることを恐れているので、なかなか話し合うことができないのだと、西成の問題は、数本の道路を隔てるとまるで聞こえてこない。透明な扉で囲まれているかのように。

西成で育ったある若者が訪ねて来た。「西成を知ってもらいんです。日雇いの街だけじゃなくて、猫塚とかあるんですよ。ツアーを考えたいんです。でも、こんなこと言った僕がはじめてらしいんです。猫塚? 吹き出しそうになったが、彼のプランにこころの鳥が羽をばした。西成を触れないと決めつけてる場合ではない。

■新世界の新社
明治のころの白黒写真を見ると、通天閣からゴンドラが伸びている。湿地だった場所を勧業博覧会、ルナパークなど観光地として開発し、新世界と名づけたらしい。フェスティバルゲートにジェットコースターが響きついているのもこの地の運命か。

平日でもどんな時間でも、おっさん率(吃驚するファッションセンス)が高いのがこの境界の特徴だ。西成と動物園と電気屋街に囲まれて、おっさんたちとともに生きている街の、何が新しいのか、さっぱりわからないけれど、都市開発者の思惑に翻弄されながらも、人が生きようとするたくなき場所だと思うのだ。

READING THE BIG ISSUE
PPPPCB.N.S.スペシャル「reading THE BIG ISSUE」
10/9(土) 18:00start ¥1700(「THE BIG ISSUE」最新号付き)+1drink
*収益の一部をTHE BIG ISSUEに寄付します
上田假奈代、ウラン・ジクス、勝野タカシ、セキミハム、LOVEDLOVED、
つきやまいくよ、橋安純、パンツパンツパンツ
リーディング・ビッグイシュー

PPPP 出演する勇気のある人はれんらくしてください

■出演者一覧 6/23~9/14 *各出演者のレビューは、コクルームのウェブサイトに掲載しています

6/23 ●ひげ親子の夜。

一条龍光(ひげピエロ)、SUMIDA(ひげサックスvsはげドラム)、もぐらが一周するまで(ひげギター)、砂十島NANI×雀吉(ひげドラム二人組)、上田ヒゲ代(ひげ詩人)、POKKA POKKA(ひげベーカリー)、坂本ぶでいんぐ齋(ひげプリン)

7/13 ●木村で/タフライの夜。

カコイヨシハル(BRIDGEブックキング担当)、STYLE(NPO法人理事コンビ)、Oui Cao(真佐子帰って来てくれ、空間悠々劇的(反応反射即興速攻))

7/18 ●グリグリア

うつろいゆくも(名もなき修羅)蓮子米(羅漢仁王詩の覇者)、勝野タカシ(テクニック大王)、井崎和(はげドラム)、江剛成(名も知らぬ花のうた)、LOVED LOVED(ロケンロー)

7/24 ●泊大夜 第4夜

ハダゲデンキユウ(新世界カラオケ女)、森健二(液体芸術家)、鏑二郎(オカリナー人芝居)、おしどり(夫婦音曲秀才)、ニッチモ&サッチモ(介護人ユニット)

7/27 ●ぶぶ子ナイト

谷川修一(素人芸)、echo light(八百屋からの刺客)、SUMIDA(ぼうず二人組)、Gadget(見たような)

7/30 ●Scemary vol2 水の中の冷たい太陽を壊す

Ira, diadums, GAS, エスエフロクス・トリオ

8/10 ●信じる前に泣け、世界遺産からの表演者登場。

想い出迷子(忘れ)、梶谷友美(こわい話)、M(日本語アカベ裸っ)、新世界文楽実行委員会(世界遺産からの刺客) トルエンサンゼン(思い出せない)

8/16 ●凱旋! 奥原義典にやんにやんナイト

桑原義典(にやんにやん大王)、近藤洋一(鉄肺バエムから)、ミキ(はみだしっこの朗読会から)、橋玄純(路上から)、TASKE(無二)、いつわらざるもの(名もなき修羅)、Xoe Xab(岩田久次郎)、東野祥子(トヨタ何とかアワードの覇者)、ヨイカ(NPO法人申請中ユニット)

8/24 ●声に明日がページとうがー!

空間悠々劇的(反応反射即興速攻)、echo light(今日で打止め)、にせSUMIDA(上田假奈代vs井崎和)、もぐらが一周するまで(あこがれ音楽)、滝本森三(グダイ、俺を見守ってくれ)

9/14 ●禁断の一日。見る前に死ぬ。

中西恵子(破片を展示する)、時々銅鑼民具(禁断のギターデュオ)、谷川修一(素人芸ファイナル)、TASKE(唯一)、横沢×江(タムタムカンパニーvs代打井崎)

PPPP. どうだろ御殿3~ドラマ騒ぎとネットオークション中毒

P.P.P.P.C.B.N.ブックキングマネージャーの坂本ぶでいんぐ齋は、はかりしれない男である。料理人である。関西プリンアカデミー公認プリン師でもある。染物職人として、バリコレを目指していたこともあるらしい。それだけではない、もともとコクルームとの関わりは工事人としてだ。内装業の職人である。からだがかい。プロレスとコンビニ弁当が好きだ。若い頃はローリーアングラーソンも好きだったらしい。10年ほど前には、内輪の宴会のためにギャビンブライヤーズの「タイタニック号の沈没」をミュージシャンにギャラを払って譜面起こしから再現した。最近では、アーティスト高橋匡太の何百本もある蛍光灯インスタレーションの工事もこなし、自らのスキルとした。携帯は通じない。通話料を払っていないからだ。よく行方がわからなくなる。コクルームに住んでいるのでは?は思わせるふしもある。

この1年半でぶでいんぐ齋がここで習得した最大のスキルが、パソコン。上田のMAC2号機を我が物とし、我々が気づいた時には、一本指でインターネットの海をひたすら泳ぐネット中毒おやじになっていた。

嫌々P.P.P.P.の担当を押し付けられてしまったぶでいんぐ齋は、ホームページのメアドをたよりに出演依頼のスパムメールを何百通も送りつづけた。忌野清志郎にも送った。坂本龍一にも送った。沖縄で休養中のココにも、そんなもんコクルームに来るわけないやろ!さて。

彼の最近のお気に入り、ネットオークション。コクルームにユニが届けられる。パリカンセットが届けられる。包丁セットは粗悪品だった。子どもドラムはやっぱり小さく、dbxのノイズリダクションはいまいち。それでも彼は今夜もネットを徘徊する海千山千の連中と1円単位のせこく激しいバトルをくりひるげるのだ。

井崎さんが使わないドラムをコクルームに貸してくれることになった。足りない部品や、こわれたネジなど、いろいろ不具合があるが、上田も私もことドラム問題に関しては触れない。メーカーのロジャースはとくに潰れてしまっているらしい。これこれ。このシチュエーションにぶでいんぐ齋は燃える。粘り強い予算計上への説得。とうとう上田が財布を開いた。その後の彼はコーナンに何度も通い、ネジを自作し、シンバルやドラムの皮は得意のネットオークションで1円でも安く入手する。金属パーツを徹夜で磨くぶでいんぐ齋の背中、哀愁を漂わせつつ、やりとげなければならぬ仕事を持つ男の幸せに包まれていた。

負けた。負けました。人間の才能というのは、その人のもつエネルギー量の問題なのではないか。この文章にオチはない。オチがあるうがなかるうが、明日のP.P.P.P.に備えるぶでいんぐ齋は、また徹夜するに決まっているのだ。

夏が終わった

PPPPW担当:阿佐田亘(a.k.a.大和川レコード)

これまで少し固い話を書いたので、今回は夏の終わりに感じたことを少々。僕は夏が好きだ。夏は「音」が、至る所でたくさん鳴っている季節だから。

蝉の鳴き声は言うまでもない。どこもかしこも窓を開けているので、住宅路を歩くと、様々な日常が音となって聞こえてくる。テレビの音、食器を洗う音、子供達の笑い声、ピアノの練習音...僕はこれらの音を採集して、家に持ち帰って聴いてみる。その時、その場所でき採れない、日常の奏でるアンサンブルに改めて感動してしまう。「これほど有機的な音楽は他にないのではないか」と。

昔から、団地街、路地を歩くと、何処からともなく聞こえてくるピアノの音が、溜まらなく好きだった。その演奏はとてもしこちなかつたりするのだけれども、風の音、虫の鳴き声、木々の揺らぎ...様々な空気を伴って、僕の耳に届く頃には熟成された演奏となっているのだった。

僕は思う。あの路地を歩くと聞こえてくるピアノのように、自分の歌を人に届けることができたらと。風景の中に埋もれてしまいそうなのに、決して忘れることのない、心に残る美しい歌を、提示できればよいのにと。

大和川レコードの「風景の切断」はまだまだ続きそうだ。

大和川レコード/阿佐田亘(アサダワタル)によるソロプロジェクト。日常の異化/風景の切断パフォーマンスや歌の提示の在り方を追求している。http://www.geocities.jp/endeavor0203/



CHIMES -prick up your ears-

川崎まみち

Cocoroom booking exhibition

7/18(日)~8/1(日) AshAreAlbum Vol.01「ラクガキバタフライ」/Ash-irica(イラスト)少年のココロを持った...というのはAshのことをさすのかもしれない。空想で描かれたイラストはラクガキなんて言っているけれど全てにちゃんと物語があるのです。

8/5(木)~8/29(日) 服部聖一写真展~上田假奈代「日々」~/服部聖一(写真)詩人上田假奈代を撮り続けている服部。今回はプライベート写真かと思わせるほどくつろいだ表情。壁面いっぱいに写真パネルを展示しているにもかかわらず、不思議と息苦しさがない。カメラマンの腕とモデルの魅力で、日々に疲れているオジサン達(いや、オジサン以外も)を癒しました。

コクルームでは壁面をギャラリーとしていますが、cafe、ステージもあるフリースペース。そのため人の出入りも多く、イベントも多種多様で、一般のギャラリーと比べると雑然としています。時には、人や場のエネルギーに作品がのまれてしまう事もあり、作家にとってはなかなか厳しい場所です。

8/31(火)~9/12(日) たそがれあかつき/こぶくあい(日本画)では、そんな空気感を圧倒する作品がならびました。京都在住のこぶくあいのなじみの風景であろう鴨川の土手や鎮守の杜、平凡なモチーフ。落ち着いたグリーンで統一された作品から静かな空気が流れ出し、空間いっぱい、しんとした空気が満ちました。同会期中に大阪現代美術プログラム「あなたとわたしの間に」(出演:秋田光彦、内橋和久、上田假奈代)があり、ライブ中も作品は香の匂いと読経にうかがひがありました。こんな不思議な偶然もフリースペースの醍醐味。

◆今後の予定(開廊時間12:00~22:00 入場無料)

- ・断片を展示する vol.2 9/14(火)~9/26(日) 中西けいこ/インスタレーション
- ・「inside map」9/28(火)~10/10(日) 勝田真由/ファイバーアート
- ・7th exhibition「JAPAN」† 10/12(火)~10/24(日) m.morikawa/イラスト

BOOKS ARCHIVES

声が明日のページをめくっていく

夏のBAは台風ばかりだった。雨の音を背中に、小説を朗読している、のを録音している、のを聴いていた。BAは月に4回、ほぼ毎月曜日、仕事帰りに立ち寄れる8時半から。ウランさんは毎回、短編を朗読。楽器奏者を連れて来たり、自ら演奏したりと、とてもドラマティック。上田さんは「吹雪の星のこどもたち」を読んでいる。長編なので1年読んで終わらないそう。視覚障害者のKさんがこのCDを持ち帰り「催眠効果が高い」との評価を得た。

8/2,8/30,9/6 「吹雪の星のこどもたち」山口泉著、朗読:上田假奈代
8/9,8/23,9/13 「快楽通りの悪魔」デイビッド・フルマー著、朗読:ウォン・ジクスー

*BOOKS ARCHIVESはウェブでもアーカイブされています。
http://www.log-osaka.jp/broadcasts/booksarchives/index.html

於鼻電脳女流詩人
交流向上百花繚乱
詩的空間月毎更新
随時求新同胞以愛



http://www.os.rim.or.jp/~orchid/
ウェブ女流詩人の集い 蘭の会
アンソロジー

¥1575(税込み)
発行:詩学社
装丁:RADIO DAYS
コクルームでも好評販売中

http://www.os.rim.or.jp/~orchid/

詠唱日本国憲法



全国CDショップにて
好評発売中
注文番号ZECCO-001
¥2100 inf.コクルーム

視覚障害者施設ライトハウスでの録音したテープは、いつも雑音から始まっていく。椅子にたどりつくまでの短いナビゲートの間、声はいつも自然と小さくなる。くもったガットギター響きで、その日の空模様までわかってしまう。そんな気がするだけだろうか。手始めに、たっぷりのストレッチと深呼吸を繰り返す。テープに収められた環境ノイズの中から、かすかな呼吸の音が聞こえてくる。

詩人が吉野弘の詩を読む。「犬とサラリーマン」。犬と会話をかわしそうになるが、思いとどまる。そんなサラリーマンの眩しが幻の風景のようにそこにあった。

それから、身体をまっすぐにしてみる。それぞれの声の持ち主がごちなく声を重ねはじめ。

詩人は話しかける。好きな坂について教えてください。

坂についての思いがゆっくりと、ゆっくりと、返ってくる。

あなたの好きな坂はどんなでしたか。父さんとトラクターで坂を走ったなあ。それぐらいだ。

あなたの坂の思い出を聞かせてください。いつも坂を探していました。自転車で駆け降りる為の坂を。

あなたの暮らした町の坂は、どんな坂でしたか。くだっては、のぼり、のぼっては、くだり。

毎日、毎日、どこまでもつづく坂をのぼりおりするのがつかったあ。

坂を語る女の音が、歩んできた人生について。

テープレコーダーを前にした私は、はっと息をのむ。

くだっては、のぼり。のぼっては、くだり。さっきの男がしみじみ言う。

そのうち坂を探すが、とてもばかばかしいことだと気づき、そんな遊びはやめてしまったのです。

やがて、いくつもの声が立ち上がる。雲母のように幾層にも重なった声で確かな存在をなはしめる。ときどき、ひときわ大きくなる男の声に、声の持ち主のその場への精神的な負荷と、エゴに似た自意識の緊張を聴くことができる。それはまぎれもなく私の声だった。

意志を持ちはじめたように、声々がオーケストラのように響いた。

混濁していたハーモニーが澄み渡りはじめ、雲の上に糸が伸びていく。

その場所で、詩人はひとりだった。彼女がもういちど話しかけようとする時、言葉は、ひとりからひとりへ向けられた詩を詠う声に変わっていった。青空が広がっていく。(了)

■声とことばのワークショップ 10/1・15・11/5・26・12/3 すべて金曜 13:30 無料
会場：視覚障害者リハビリセンターライトハウス 大阪市鶴見区今津中2-4-37

コインランドリーベイビー

加久裕子 (名古屋のニュー詩人)

福岡県に生まれ育ち、19歳で家を出た。その頃は何もかもが嫌で、私は名古屋の冬の夜を独りさまよひ歩いていた。寒さをしのぐためコインランドリーの中でうずくまる。青く人工的光放つ箱はコイン一枚で年中無休仕事をしている。まるで母親のように。汗・涙・血・人のあらゆる汚点を洗い落とすコインランドリー。洗い濯ぎ・乾燥と大型洗濯機に回されて、終了とともにブザーは鳴った。フタを開けると真っ赤なしゃもじが大きな声で泣き叫ぶ。私はコインランドリーベイビーをしっかりと取り上げた。3800gのベイビーは名古屋に生れ落ちて4歳になる。時々、詩を朗読したりする。おんぎゃあおんぎゃあ

今年の夏はとても暑かった。そして夏は終わった。名古屋を代表する詩のイベント、桑原隆彦主催の「tamotagi」が6月から月に一度始まった。お客さんの半数がオープンマイクに参加し、さまざまな作品が発表された。会場は名古屋市のJR高架下にあるKJapan。時々通る電車の音と震動を感じながら、ゲスト出演者とお客さんが一体となり、たくさんの言葉があふれた。9月に惜しまれながらも最後の4回目を終えた。桑原氏は今、東京で活動されている。私を含め鈴木陽一・レモン・若原光彦・assmaの名古屋tamotagiメンバーはほぼ同世代。出演以外もスタッフとして参加し、桑原氏の姿を見てきた。主催という立場でのあり方、厳しさ、そしてアーティストとしての姿、私達に「見せる」というやり方で教えてくれたのだと私は思う。最後の夜「あとはお前達にまかせ！」と桑原氏は言った。私達は卒業したのである。こんどは私達が桑原氏の耕してきた土地に花や木を植えていく番なのだ。魂を研ぎ澄ませながら。



OLUprojectは、平成16年度大阪・まちの賑わいづくり助成事業に選ばれました
OLUprojectは、和文化的幹キモノをアートの角度から、日常性の中へ再提案する試みです
キモノでいこう! キモノでお洒落して、アートを体験してみる秋の一日。

ナビゲーター：上田假奈代(詩人) すべての予約とお問合せ：コッポルム OLUproject 係
特典：参加者全員にもれなく、吉野産「OLUproject箸セット」を呈呈

■キモノでBLUES 塩次伸コソンド

11/18(木) 会場：RAIN DOGS 料金：投げ銭
制(要予約) 現地19:00集合

■キモノで文楽「仮名手本忠臣蔵」

11/20(土) 会場：国立文楽劇場
¥5000(要予約) 11/5までに
現地に15時半集合

■キモノでダンス 大野麗人「魂の糧」+金満

里「ウリオモニ」
11/27(土) 会場：Art Theater dB
¥3000(要予約)
コッポルムに14時半集合

■キモノで能 Bridge de Noh

12/18(土) 会場：Bridge ¥5000(要予約)
コッポルムに16時20分集合

■キモノでライブ PPPPCBN

12/25(土) 会場：コッポルム
¥1500+1drink(要予約)
現地に18時30分集合

日常キモノ指南 着つけ教室

19:00 会場：コッポルム
¥1500(要予約) 講師：上田假奈代
10/6(水)、10/20(水)、11/4(木)、11/17(水)



POWER OF CULTURE



市場の倫理 統治の倫理

J・ゼイコブス著 日経ビジネス文庫 ¥857

社会って複雑すぎてよく分かんないあなたへ：★★★★★

資本主義のもとで暮らして、社会というものと対峙したとき、もう何がなんだかよくわからない事態というのがある。個人としてどう振る舞うか、を選ばざるを得ないのだが、だが、どうもすっきりしない。この謎な社会を鋭くきっぱりと、端的にわかりやすく二つの倫理にわけて、教えてくれる本がある。

本書は、資本主義以前から現代を駆け抜け、企業だけでなく国家やメディア、身分制度、民族、宗教などのおこる問題を対話形式で明らかにしていく。読んで、ああ、なるほど。目からウロコ。地球のうえには、明確なルールなどない。善良でありうるのは個人生活においてのみで、社会のうえでは善良など吹っ飛ばされる。人類は生産と交易を行ない発展し、片方は縄張りの組織と管理を徹底する経験によって生き延びてきた。この相反する道徳をして、歴史は紡がれた。二つの倫理を混同するとき、大きな破壊をきたす。この社会で自分自身を知ることがどれだけ重要かについて、クールに探求することをすすめてくれる本だ。

詩人の恋人2

桑原隆彦

夏が終わったな。ざまあみろ。

(きみに最高の愛をあげる とはいわない。そんなものをおれは 持ち合わせてはいないから)

今年は各地で詩の朗読会に参加した。

(それじゃあおれはきみにたいして 一体何をささげることができるだろう。何もなし 気がする)

いろいろな人と出会った、いろいろな話をした。

(それでもおれはきみのことが大好きで、きみのそばにずっといたい、きみのためならどんなことでもみせるさ。それって愛? それってエゴ?)

10年後にこの夏のことを振り返ったら、みんな詩になるのかな。

(いま寝顔のきみはとてもうつくしく、きっと寝起きのきみはめっちゃくちゃかわいんだらうな。眉間の皺にそっとキスをするのがおれの役目。鬱陶しうに寝返りをうつのがきみの愛?)

クソツたれ。

(そう それこそが愛) いまこそが詩だ。

(きみに最高の愛をおくる とはいわない。きみから最高の愛をもらおう という)

秋もやるぞ。セックスを!

サイト管理人便り 藤部聖一 <http://www.kanayo-net.com/cocoroom/>

Webの社会は一期一会である。どんな人が見てくれているか分からないから、どんな環境や条件でも最低限の円滑なことを旨としている。

何かを表現しようとするとき、自分に従うか、時代の流行に従うのか?

これは偉大な問題だが、WEB表現という立場で決める時、答えは一つしかない。

みんなに知ってもらいたい、という原点を忘れないこと。そのためには、誰にでも使いやすいこと、直感で扱えることが大前提だと考える。

スタッフから視覚障害者の方が「web cocoroom」を見てくれていると聞いてから、画像よりも音声で読み上げることのできるテキストを優先している。ひとりの人のためにこの選択を選んだが、コミュニケーションを包んでいるサイトでありたいと思うから、画像の下にも白色のテキストを入れたりする。限りなく単純で複雑な人の心に何かを伝えるために、単純なインターフェースと使いやすさをめざしている。

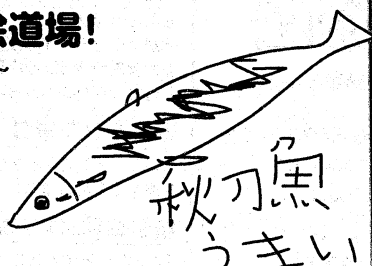
もーれちゅ! マウス絵道場!

~詩のオーケストラサイト共同企画~

「毎日秋刀魚でもいいます。」

絵とコメント：のぞ

子どもの頃、秋刀魚の黒い苦みばっした内臓が好きで、将来きっと酒飲みになると噂されていた。今年も、秋刀魚雲がビールを呼んでいる。



today's 11/365

口べたですけど、話しにいかせてもらいます

採取日時：2004年8月23日(月)15:05 採取場所：コッポルム

ホームレスの仕事をつくり自立を支援する「THE BIG ISSUE」を阿倍野で販売する赤間さん(仮名)が来てくれた。10/9の催しに最新号をもって販売してもらおうための打ち合わせ。伏し目がちに言葉を選びながら話す。わたしも言葉を選ぶのに時間がゆかり二人の間に沈黙がおこる。彼は路上で暮らす働く気力のない人たちに、この仕事をすすめたいと思っているそう。そのために誤解や偏見をなくするために、イベント当日も話をしたいと言ってくれた。

BOOKS ARCHIVES

20:30start 入場無料(要ドリンクチケット)

声が明日のページをめくってゆく / 朗読: 上田假奈代、ウォン・ジクスー
 10/4(月) 第25夜/上田 10/12(火) 第26夜/ウォン 10/18(月) 第27夜/上田 10/25(月) 第28夜/ウォン
 11/1(月) 第29夜/上田 11/8(月) 第30夜/ウォン 11/15(月) 第31夜/上田 11/29(月) 第32夜/ウォン
 12/6(月) 第33夜/上田 12/9(木) 第34夜/ウォン 12/13(月) 第35夜/上田 12/20(月) 第36夜/ウォン

P.P.P.C.B.N ~cocoroom bocking night~ 19:00start ¥1,500+1d

10/9(土) P.P.P.C.B.N.スペシャル「reading THE BIG ISSUE」
 17:30open 18:00start ¥1700(「THE BIG ISSUE」最新号付き)+1drink
 *収益の一部をTHE BIG ISSUEに寄付します
 上田假奈代、ウォン・ジクスー、勝野タカシ、セキミハル、LOVEDLOVED、
 つぎやまいくよ、橋安純、パンツパンツパンツ

10/10(日) 18:15open 18:45start
 びびんげ、山本雅史、上田假奈代と世界の果てに、足立大輔、jaaja、
 MALTHUS-ryotaro&take-bow

10/26(火) 手廻し活動写真(弁士・小崎泰嗣)、STYLE、にせ江剛成、Pirate Love ほか募集中
 11/6(土) 募集中

11/9(火) P.P.P.C.B.N.W. vol.4 produce:阿佐田直(大和川レコード)
 スッパマイクロパンチョップ(childisc/from東京)、北紫子、RUBYORLA、
 大和川レコード ほか

11/26(金) オーケストラ ほか募集中

12/5(日) Taske ほか募集中

12/24(金) 募集中

12/25(土) 募集中

お知らせ 11/9(火)以降 (11/9は除く)
 P.P.P.C.B.N.に毎回オープンマイク「実験精神」
 持ち時間5分(セッティング2分以内)を3組募集

上田假奈代のぼえ茶会

20:00start

10/15(金) vol.21「生きる仕事シリーズ」
 前売¥1300 当日¥1500 中高生¥1000 すべて+1drink
 生まれ育った街で起業する。脱サラ貸自転車屋 小田切聡氏と語る
 11/12(金) vol.22「フリーペーパー編集部ギャザリング」 ¥500+1drink
 12/17(金) vol.23「上田假奈代の人生相談」 ¥500+1drink

文学トコトコ

20:00start 1drinkオーダー

10/8(金) 「バクスタ写真物語」 語り部:くりあきみのる、山村けい子 ほか
 11/2(火) 中島みゆきと郊外のドメスティックな憂鬱
 ~ヤンキー・宗教・ファミレス・黄色い古本屋~ 語り部:晴瓶シウジ
 11/11(木) ダリオ・アルジェントでトラトラうまうま ~わだかまりのかたまり列伝~
 語り部:切通くん
 11/16(火) U2とホームヘルプサービス ~30代の失業者達へ~ 語り部:コマイナース

cocoroom cafe 企画

20:00start 1drinkオーダー

10/7(木) 映画ええがな3「チェブラーシカ好きのためのチェブナイト」
 案内: 上田のぞ美

Chimes~prick up your ears~

12:00~22:00 入場無料

9/28(火)~10/10(日)
 vol.10 勝田真由ファイバーアート展「inside map」

10/12(火)~10/24(日)
 vol.11 M.MORIKAWA(イラスト)「JAPAN」

11/23(火・祝)~12/5(日)
 vol.12 市村桂子(写真とことば)「パレード」



JAPAN

30年ぶりカントさん来阪「〇△□まるさんかくしかく」ライブ

9/23(木) 17:00start 入場無料+1drink
 9/23~10/6 「カフェ.さくろう」展

Coco de Noh (ココデノフ)

18:30open 19:00start ¥2500(drink付)
 10/16(土) 三日月の晩に...「メロディじゃない?能の笛を聴く」
 笛:竹市学 謡:味方玄 小鼓:成田達志

11/19(金) 上弦の月の宵は...「謡と太鼓の面白さってなに?」
 謡:片山清司 太鼓:山本哲也

問合わせ・申込み: cocodenoh@log-osaka.jp 090-9982-9116
 定員: 65名限定 ※2回通し+Bridge Nohの特別割引券(9,000円)あり

む革命計画隔月公演

18:30open 19:30start ¥1500+1drink

10/1(金) vol.2 「阿咩-a-un-」

12/3(金) vol.3 「骨組-honegumi-」

む革命計画 (キド☆ユタカ・長田英将・道上元春・今井慎太郎)

問合せ・申し込み: gekitekite@hotmail.com 06-6305-8451(空間 悠々劇的)

山口富士夫LIVE

10/17(日) 19:30 start(予定) 料金未定+1drink
 opening act LOVEDLOVED ほか

劇団カノン 第7回公演「回想・アシタミル」短編集

10/23(土)・24(日) 時間未定 ¥1000+1drink
 作・演出: 土井朋 info.090-3727-8610(劇団カノン)

G.G.アレン・ナイト~NYハードコア・バンク伝説~

10/29(金) 18:30open 19:10start ¥1800(前) ¥2300(当) ともに+1drink
 G.G.トーク1 "who is GG" ゲスト/ヨハネス・シェーンヘル、柴田剛
 「HATED」上映、スカムLIVE
 前売券はコクルーム、PLANET Studio+1、第七藝術劇場にて発売
 info.06-6359-7830(PLANET+1)

谷垣全快祈願「シンセまつり」

11/23(火・祝) 詳細未定

関連情報

上田假奈代の詩の学校

9/22、10/13、27、11/10、24、12/8、22 すべて水曜 19:30 ¥1000/1回
 お申込み: コクルーム
 会場: 應典院 大阪市天王寺区下寺町1-1-27 tel.06-6771-7641

gallerism2004「絵とパンの間に」

11/13(土) 15:00 入場無料 朗読: 上田假奈代
 会場: 大阪造形センター 大阪市北区鶴野町1-1 Tel.06-6372-9781

タロウと上田假奈代と世界の果てに

11/30(火) 19:30(予定) ¥2000(1ドリンクつき) ゲスト: 加久裕子、レモン
 会場: KD japon(ケーティ ハボン)名古屋市中区千代田5-12-7 tel.052-251-0324

Cocoroomでは、寄付をつっています。

運営のための寄付をつっています。ご寄付いただいた方には、お名前を
 「ぼえ犬通信」に掲載させていただきます。5000円/1口 何口でも結構です。

郵便振替 記号01090-5-48059
 cocoroom代表 ウエダカナヨ

三井住友銀行 船場支店 普通 2140440
 cocoroom代表 ウエダカナヨ

宮前のおんさまさまよりお心添えいただきました。

編集後記: コクルームでは、「男のカレー」を仕込んでいます。軽食もあります。
 おなかを空かせてきて、だいじょうぶですよ。よい秋を。(か)



ぼえ犬通信 名古屋地区配布!!(協力・加久祐子)



zip556-0002 大阪市浪速区恵美須東3-4-36
 フェスティバルゲート4F
 tel.06-6636-1612 tel&fax. 06-6636-1662
 http://www.kanayo-net.com/cocoroom/

※地下鉄御堂筋線・堺筋線「動物園前駅」5番出口直結
 ※大阪市営バス「地下鉄動物園前停留所」すぐ
 ※JR 環状線・関西線「新今宮駅」下車 徒歩すぐ
 ※南海電鉄線・高野線「新今宮駅」下車 徒歩5分
 ※阪堺電軌鉄道「南農町駅」下車 徒歩すぐ
 ※駐車場(有料)

cocoroomをご活用ください

あなたの活動がもっとスムーズに、そして継続できるような協力
 体制でのぞみます。企画書をもってお話にきてください。
 使用管理料: ¥5000/1日 お気軽にご相談ください。
 お得な「co屋」バックもご利用ください。

スタッフ求む!!

びよんびよんスタッフ(ボランティア)から、有償スタッフまで。
 現場感あふれるコクルームと一緒に活動してみませんか。

この秋、コクルームがNPO法人に

「こえとことばとこころの部屋」として、大阪府に申請中。さらなる
 体力をつけて、表現活動にまつわる意識の向上をめざします。